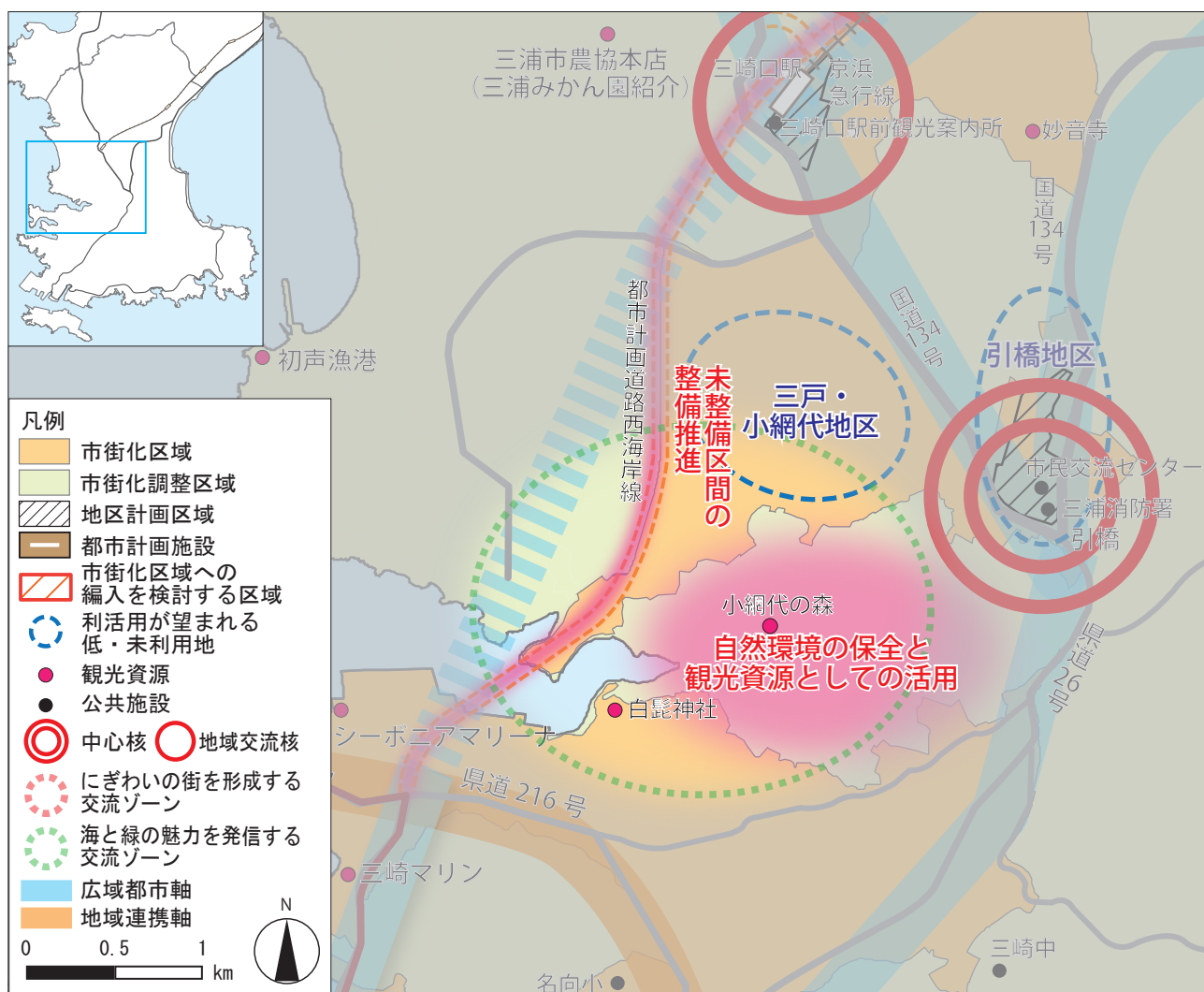


イ 小網代の森周辺（図 3-6-9 参照）

本ゾーンは、三浦市の中心部に位置し、交通利便性が高い国道 134 号と県道 26 号との結節点に隣接しています。

首都圏でも稀有な集水域の森林から河川、湿地、干潟、海までが一体的に自然状態で残る樹林地「小網代の森」が広がっており、引橋周辺にある市民交流センターに小網代の森インフォメーションスペースを設けるなど、自然環境の保全、交流人口の拡大等に努めています。

これらのことから、この良好な自然環境・景観を保全するとともに、油壺や三崎下町、城ヶ島へと続く回遊性を確保するなど、観光資源としての活用を目指します。



■図 3-6-9 小網代の森周辺

ウ 宮川・毘沙門周辺、松輪・劔崎周辺、金田漁港周辺（図 3-6-10 参照）

本ゾーンは、三浦市の南部に位置し、交通としては、県道 215 号の沿線となっていますが、鉄道駅から遠いことから交通利便性に課題があります。また、人口については、町単位（宮川・毘沙門・松輪・金田）では減少傾向となっています。

優良な農地が広がり、基幹産業である農業の代表的な生産地のひとつとなっています。また、水産業（漁業）も盛んで漁港が複数あります。

宮川・毘沙門周辺は、宮川公園やプレジャーボートが停係泊できる、みうら・宮川フィッシャリーナが整備されています。

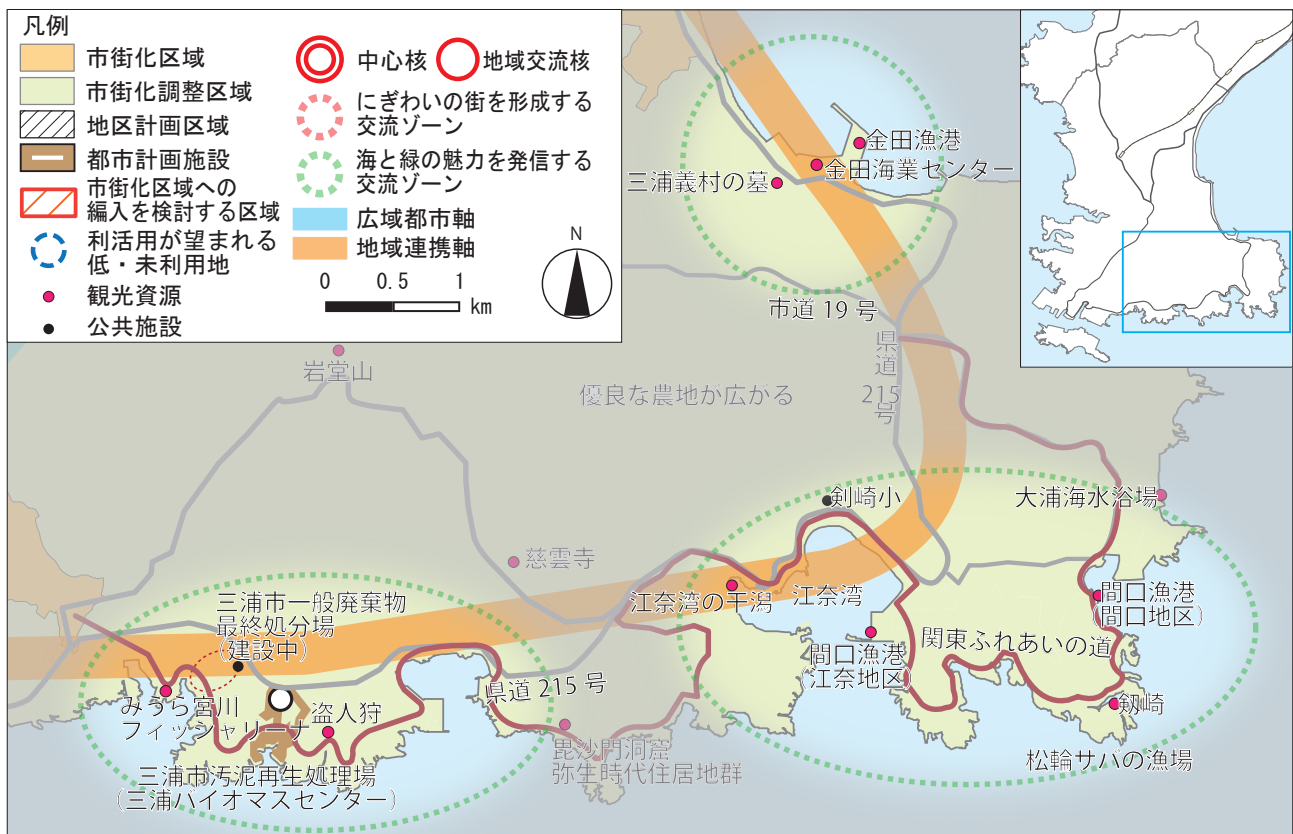
松輪・劔崎周辺は、全国的にも有名な松輪サバの漁場が地先にあり、また、代々地先に居つく一本釣りの技術を活かした遊漁も盛んで、多くの釣り人が来訪しています。

金田漁港周辺は、昭和 62 年から金田湾朝市が催され、その日に獲れた地先の魚介類や近隣農家の野菜等を目当てに多くの買い物客が来訪しています。

海岸沿いは、「関東ふれあいの道」（三浦・岩礁のみち）として、ハイキングコースにもなっており、江奈湾・盗人狩などといった豊かな自然環境を有しています。

これらのことから、「農・漁業や観光が共存するまち」を目標とし、自然環境の保全と活用による農漁業や観光が共存するまちとしての形成を目指します。

また、防災面からは、海に近く、津波や高潮等への対策が必要であることから防災・減災対策を進めていきます。



■図 3-6-10 宮川・毘沙門周辺、松輪・劔崎周辺、金田漁港周辺

